

「木曾川水系連絡導水路事業の検証に係る検討報告書(素案)」

に対する関係住民からの意見聴取結果について

【議事録】

木曽川水系連絡導水路事業の検証に係る検討報告書（素案）に対する  
関係住民の皆様からのご意見をお聴きする場

日時：令和6年6月5日（水）18時

場所：ハートフルスクエアG

【発表者（岐阜1）】

大垣に住む[REDACTED]と申します。

1995年に建設省が徳山ダム建設事業審議委員会を設置して以来、ほぼ30年近くにわたって、徳山ダムと関連事業を注視してきました。いろいろな委員会などの傍聴に足を運びました。行政間の覚え書きや非公開の会議資料なども、ときに妨害に遭いながらも、情報公開請求手続きを重ねて入手しました。さらに国会議員を通じての質問主意書などで情報の確認をしてきました。この事業に関して、詳しい一人だと自負しています。

木曽川水系連絡導水路は、徳山ダムの水を木曽川に導水するものです。

2009年、私たちが、愛知県に「愛知県には徳山ダムの水は不要だ、だから導水路も要らない」と言いに行ったとき、担当者の返事は「徳山ダムができちゃったから」というものでした。導水路の必要性を、データと論理をもって説明するのではなく、徳山ダムができちゃったからその水を使えるようにするしかない、というのです。つまり、木曽川水系連絡導水路は「徳山ダムができちゃったから導水路」なのです。

それから15年、導水路が必要だという切迫した話はどこからも聞かれませんが、要らないのです。

2008年の事業実施計画では、事業費は890億円でした。3,500億円の徳山ダムを使わないとモッタイナイからさらに890億円をかける、というのは、悪い意味でのお役人の思考法、即ち「自分の懐が痛むわけではないから」なのだと思えません。そして今、事業費は2.55倍の2,270億円に膨れ上がったそうです。3,500億円の徳山ダムがモッタイナイから2,270億円をかけて、ダムの水の一部を使えるようにする・・・ひと言で言って馬鹿な話です、本来、行政に求められている合理性のかけらも見えません。

徳山ダムは、水資源開発促進法に基づく「水資源（都市用水）開発」のダムです。ここから水を引く木曽川水系連絡導水路（徳山ダム導水路）も、水資源開発促進法に位置づけ

られた事業で、利水者として参画した愛知県・名古屋市の取水を可能にすること、つまり、目的（２）「水道用水及び工業用水の供給」が本来の第一の目的です。

名古屋市でも愛知県でも水需要は減少してきています。節水機器が普及して、給水人口が若干増えても、給水量は増えません。今後、人口は減少します。水需要は減るばかりなのは明らかです。

2004年の第4次木曾川フルプランは、とっくに破綻しています。第4次フルプランで要るとされた徳山ダムの水が、今もって一滴も使われていないのは、要らないからです。要らない施設にお金を投じてはいけません。不要な施設建設にお金を注げば、水道料金を上げざるをえません。公営企業会計は、独立採算が原則だからです。実際には、地方財政法6条を逸脱して税金を投入するようなこともよく行われてきました。いずれにしても、要らない施設への投資の負担は、住民の肩に重くのしかかってきます。

2009年当時、名古屋市の担当で「200年に一度の異常渇水が起きたらどうするんだ！想定外の万一に備えて徳山ダムの水を使えるようにするのだ！」と叫んだ人もいました。しかし、平成6年渇水後の住民アンケートでも、住民は「異常渇水時でもジャブジャブと水を使う」ことなど望んではいないことが示されています。そして平成6年渇水の際の19時間断水は、農業用水の権利者との話し合いで、解消されました。

「想定外の万一への備え」をハード対応でカバーすることは不可能です。異常渇水の際に少ない水をどう分け合うのか。分かち合いの仕組みに知恵を絞ることこそ、行政が汗をかくべき仕事です。

目的（１） 流水の正常な機能の維持（異常渇水時の緊急水の補給）。

「木曾成戸地点において河川環境の改善のための流量を確保する」とありますが、木曾成戸地点で40 m<sup>3</sup>/秒の流量を確保しなければならない科学的根拠は全くありません。平成6年渇水の際、確かに木曾川下流部でヤマトシジミの斃死は見られました。しかし、その後、ヤマトシジミの生息状態は自然に回復しています。国会での質問主意書への答弁書でも「深刻な環境被害を窺わせる資料は存在していない」とあります。

木曾川の生き物のために40 m<sup>3</sup>/秒の流量を確保するべき」というのは誤り、もっといえばウソです。

「長良川のアユ・ウグイ・カワヨシノボリの産卵のために水深30cmを確保する」というのにも科学的根拠はありません。むしろ世界農業遺産「清流長良川の鮎」にダメージを与える懸念のほうが大きいのです。

河川環境保全どころか環境破壊になってしまうのではないか。先日の学識者からの意見表明でも、複数河川を結ぶことで、カワヒバリガイのような侵略的外来種を拡散・繁殖させてしまう危険性が指摘されていました。

目的（１）には、全く合理性がありません。

導水路事業の目的（１）、（２）ともに不合理で、不要なものです。不合理で不要なものの代替案を検討するのは、無意味でナンセンスです。

検討報告書(素案)の100ページほども占める代替案の検討は、滑稽な茶番でしかありません。

「検討の場」が設置された2010年に、愛知(名古屋)で、生物多様性COP10が開催され、20の愛知目標が採択されました。愛知目標3と真剣に向き合えば、“遅くとも2020年までに”この事業を進めることの可否が、極めて厳しく検討されなければならなかったはずで

す。しかし、この「検討報告書(素案)」には、愛知目標も、生物多様性国家戦略も、真面目に検討された形跡がありません。国際的な公約であり、国家戦略なのです。「あれは環境省の所管だから国交省は関係ない」という話ではありません。この「検討の場」、「検討報告書(素案)」は、その面からも落第です。

最近、リニア新幹線の工事で近辺の地下水位が下がったという事例がいくつも報告されています。地下の長いトンネルを通過してダムの水を引くことへの弊害、環境への悪影響の懸念は深まるばかりです。

効用、言ってみれば「御利益」はなくて、不安と懸念ばかりの導水路事業、それも事業費が2.55倍にもなった・・・この事業は継続すべきではなく、中止とするしかありません。

★木曽川水系連絡導水路は「徳山ダムができちゃったから」導水路？  
3500 億円の徳山ダムの水を使わないとモツナイから、さらに  
890 億円をかける？ **いや 2270 億円になる！！**  
行政に求められている合理性のかけらも見えない。

- ★ 目的(2)「水道用水及び工業用水の供給」。
- ・徳山ダム事業に、利水者として参画した愛知県・名古屋市が「木曽川において取水を可能とするものとする」が本来の第一の目的。
  - ・2004 年の第 4 次木曽川フルプランは破綻。  
徳山ダム新規開発水が、今もって一滴も使われていないのは、  
**「要らない」**から。
  - ・不要な導水路建設への投資は、住民の肩に重くのしかかってくる。
  - ・平成 6 年渇水ときの 19 時間断水は、農業用水の権利者との話し合いで、解消された。
  - ・「想定外の万一へ備え」をハード対応でカバーすることは不可能。

- ★ 目的(1) 流水の正常な機能の維持（異常渇水時の緊急水の補給）。
  - ・「木曽成戸地点において河川環境の改善のための流量を確保する」  
木曽成戸地点で40 m<sup>3</sup>/秒の流量を確保するべき科学的根拠はない。  
平成6年渇水で「深刻な環境被害を窺わせる資料は存在していない」（一六六国会質問主意書答弁書）
  - ・「長良川の魚類の産卵に水深30cmの流量を確保する」にも科学的根拠はない。
  - ・河川環境保全どころか環境破壊になってしまっているのではないか。
- ★ 導水路事業の目的(1) (2)とも不合理。導水路は不要。不合理で不要なものの代替案を検討するのは、無意味、ナンセンス。

- ★ 「検討の場」が設置された2010年に、愛知(名古屋)で生物多様性条約COP10が開催され、20の愛知目標が採択された。**愛知目標3**と真剣に向き合えば、”遅くとも2020年までに”導水路事業の可否が、極めて厳しく検討されなければならなかったはず。しかし、この「検討報告書(素案)」には、**愛知目標も、生物多様性国家戦略も、真面目に検討された形跡がない。**国際的な公約であり、国家戦略なのに！。
- ★ リニア新幹線の工事で近辺の地下水位の低下の事例。地下の長いトンネルを通してダムの水を引くことへの弊害、環境への悪影響の懸念は深まるばかり。効用、言ってみれば**「御利益」はなくて、不安と懸念ばかりの導水路事業、それも事業費が2.55倍にもなった・・・この事業は継続すべきではなく、中止とするしかない。**

木曾川水系連絡導水路事業の検証に係る検討報告書（素案）に対する  
関係住民の皆様からのご意見をお聴きする場

日時：令和6年6月5日（水）18時

場所：ハートフルスクエアG

【発表者（岐阜2）】

はい、■■■■の■■■■です。木曾川水系の都市用水の需要と供給について、ずっと研究してきました。ええ、二点ですけども、まあ今の■■■■さんの話とも重なりますけども、木曾川水系の水需要の実態がもう全然変わってしまっていて、未だに河口堰や徳山ダム導水路を建設するのは全く無駄であるということが一点。それからもう一つは、正常流量と言いますか、河川整備計画の方にも問題があるということをお話しようと思ってます。

まず最初のスライドですが、河口堰の時にですね、フルプランが改定されずに進んでしまったので、それはおかしいということが1993年の内閣の閣議で指摘されたんですね。それで慌ててフルプランの見直しがあったんですが、次は2004年の徳山ダムの事業費が予定をオーバーしたところで、まあ再びその事業計画が合っていないので見直しをしました。その時の計画の目標は2015年です。つまり、9年前です。で9年経ったにもかかわらず、実績も出てきているわけですけども、相変わらず水需要が増える必要であるという議論はナンセンスだと考えています。あとはまあ、渇水対策がありますが、それは後ほど。次お願いします。名古屋市と愛知県の尾張地域、つまり名古屋市を除いた部分についてお話ししたいんですけども名古屋市の一日給水量のピークは1975年の123万トンです。現在、それは今80万トンです。つまり2/3に落ちてるんですね。それで当然、名古屋市の水道の経営にも非常に大きな影響を与えています。理由はやはり洗濯機やそれからトイレの節水化が進んだこと、名古屋市の人口今まだ増えてるんですが、それでも落ちてくるんですね。それからビル用はですね、今地盤沈下も収まってる地下水の組み上げを始めてるんです。従って業務用も減少してきてるわけです。名古屋市の水道事業の経営は非常に厳しいです。じゃあ次お願いします。

水源の方から示したのがこのグラフですが、名古屋市は木曾川の自流に犬山で7.56m<sup>3</sup>/sの水利権を持っています。これは実は権利落ちしません。渇水に強いんです。それぐらいに

木曾川総合用水がまあ 12m<sup>3</sup>/s くらいあって、まあそのうち 2m<sup>3</sup>/s あればですね、今 80 万 m<sup>3</sup> の給水量は十分足りるんですね。だから河口堰の水も使っていませんし、徳山ダムの水も一番上の 1 m<sup>3</sup>/s なんです。全く使う必要がないです。水源が 2 倍以上になっちゃったんですね。にもかかわらず、名古屋市はなかなか止めてくれないんですけども。はい、次お願いします。

次は愛知県の尾張地域です。ここは河口堰というか木曾川総合用水の段階でも完全に余ったんですが、長良川河口堰、一部知多で使っていますが、これは木曾川に戻せます。

それからこれも一番上ですね。徳山ダムの部分ですが、右下のピンクの部分を実際の愛知県が県水として供給している部分。80 万 m<sup>3</sup> ぐらいですけども、2 倍以上の水源になっちゃっているんですね。いるはずがないですよ。はい、次お願いします。

なぜ 2004 年の 2015 年を目標にした水需要予測が間違ってたかってことなんですけども、間違ってたというより、実際には数値を操作したと言った方がいいんですけども、赤枠で囲った部分、ちょっと、フロアから見にくいかもしれませんが、一人一日あたりの家庭用有収水量が、2000 年で 254 リットルだったものが 262 に増えるという予測をされていて。そんなことはならなくて、実際の 2015 の実績は 235 リットルでした。後で言いますが、もっと節水すれば 200 リットルぐらいまで実は落ちます。それから最大と平均の比を負荷率にするんですけども、ええ、これはもうあの 80% で非常に低い値を取っていて、実際にはもう全国的に 90% 近くになってます。つまり、ピークが落ちてくる、そうすると平均との差が縮まる。

3 つ目は、あの利用率率、つまり取水してから浄水場を経由して、家庭や企業に行く訳ですが、これも今も 100% 近いんですが、これを 91% と設定しました。つまり、いろんな指標を誤って設定することによって、水需要が増えるような計画を作ってしまったわけです。それは現実の 2015 年の実績に合わなくなったと思います。はい、じゃあ次お願いします。

ということで、2015 年目標の木曾川水系のフルプランがもうご用済みになっている。で、その次の計画作らないと導水路の事業にしても成り立たないんですけども、これは国交省の側もそれから愛知県や名古屋市も直接は出していません。ただ水道の経営計画がありますので、それとは合わせています。それは愛知県の尾張の部分で、代わりに 2030 年の需要予測しましょうかと、先ほどのいろんな数値をきちんと取ります。今、人口減少の中なかなか出生率も回復しないんですけども、2030 年までの予測を作ってこれで減少していくんですけども、2020 年、22 年位の実績がわかってきます。

で、節水をした場合が下の①。これまでのトレンドでいた場合には、②でちょっと差が

あるんですけども、もちろん人口推計も変わりますので差は出てくると思うんですけども、20年度の実績はむしろ減る方向に近いところで今推移しています。2024年、2030年まで、それ以降の人口減少も確実ですので、水需要の増える可能性は全くありません。はい、次お願いします。

かなりややこしいのが、正常流量あるいは異常渇水対策ということですがけれども、先ほど事務局から検討された案があったんですが、選択肢からわざと除いている、しかも、過去に実績があるものを除いている、これは明らかに計画上まずいんですよ。中部地整はそのを十分ご存知のはずです。一つ目は1994年、平成6年の渇水ですが、一番最後は農業用水から転用してもらうことによって切り抜けました。実は、隣の矢作川水系明治用水がですね、節水になったらまず農業用水の節水を先行して水道分を減らすのを後に後回しにするっていうルールをきちんと持ってるんですね。なぜそれが木曾川でできないのかと。やればできるんです。ところが今回、関係者へのヒアリングではですね、農業用水側は「いや、必要だから減らさない」と。本来やるべきことをやる対策を口実にですね、やってるわけですよ。二点目は成戸の40m<sup>3</sup>/s、あるいは長良川の26m<sup>3</sup>/sという正常流量ですけども、40m<sup>3</sup>/sはまあ必要はない。これもね、あの愛知県の委員会で、中部地整さんとやり取りしたんですけども、成戸地点の取水したり、(成戸)から貯留する制限流量が実は50m<sup>3</sup>/sなんですよ。で、これは過去木曾三川協議会1963年に決まってるって言ったんですが、その時の数値のデータを僕は洗い出しました。その時は40m<sup>3</sup>/s、50m<sup>3</sup>/s、60m<sup>3</sup>/sで計算しています。40m<sup>3</sup>/s トンでも別に問題あると考えるてなかったんですよ。その10m<sup>3</sup>/s分を落とせばですね、岩屋の補給流量を減らせるので、実は渇水期間のそれを凌げるというシミュレーションを僕やったんですけども、問題は起こらないんですよ。

40m<sup>3</sup>/s にしてれば40m<sup>3</sup>/s を下回っても問題はないですけども、実際には渇水時には農業用水も取水しますんで、20m<sup>3</sup>/sとか、もう平成6年の時はもうゼロに近い時もありましたしね。それで環境への目標が生じたわけではあります。

次3つ目。岐阜県に関係する部分では東濃用水の節水に関係するっていうのが出てくるんですけども、次お願いしますね。もう一つ先にいっていいかな。牧尾ダムはね、設計が悪くて牧尾ダムに流れてくる水を次の発電所にこうやって回してしまってるんで、水が貯まらないんですよ。もう一つは、兼山のところで取水するんですが、そこに今の関西電力が200m<sup>3</sup>/sという豊水の水利権を持っています。200m<sup>3</sup>/sは多すぎると最初からずっと言われ続けてたんです。150m<sup>3</sup>/sでも十分。実際、1970年代の前半は150m<sup>3</sup>/sに落としたんで

す。暫定で。ということは愛知用水はそれで十分やっていける計画なんですね。その上で阿木川ダムと味噌川ダムができて、この三つのダム統合運用ということは、中部地整さんがやっています。これで渇水は起こらなくなったんです。ちょっと戻ってもらっていいですか。ごめんなさい。これなんです、最近ほぼ渇水は起こりません。

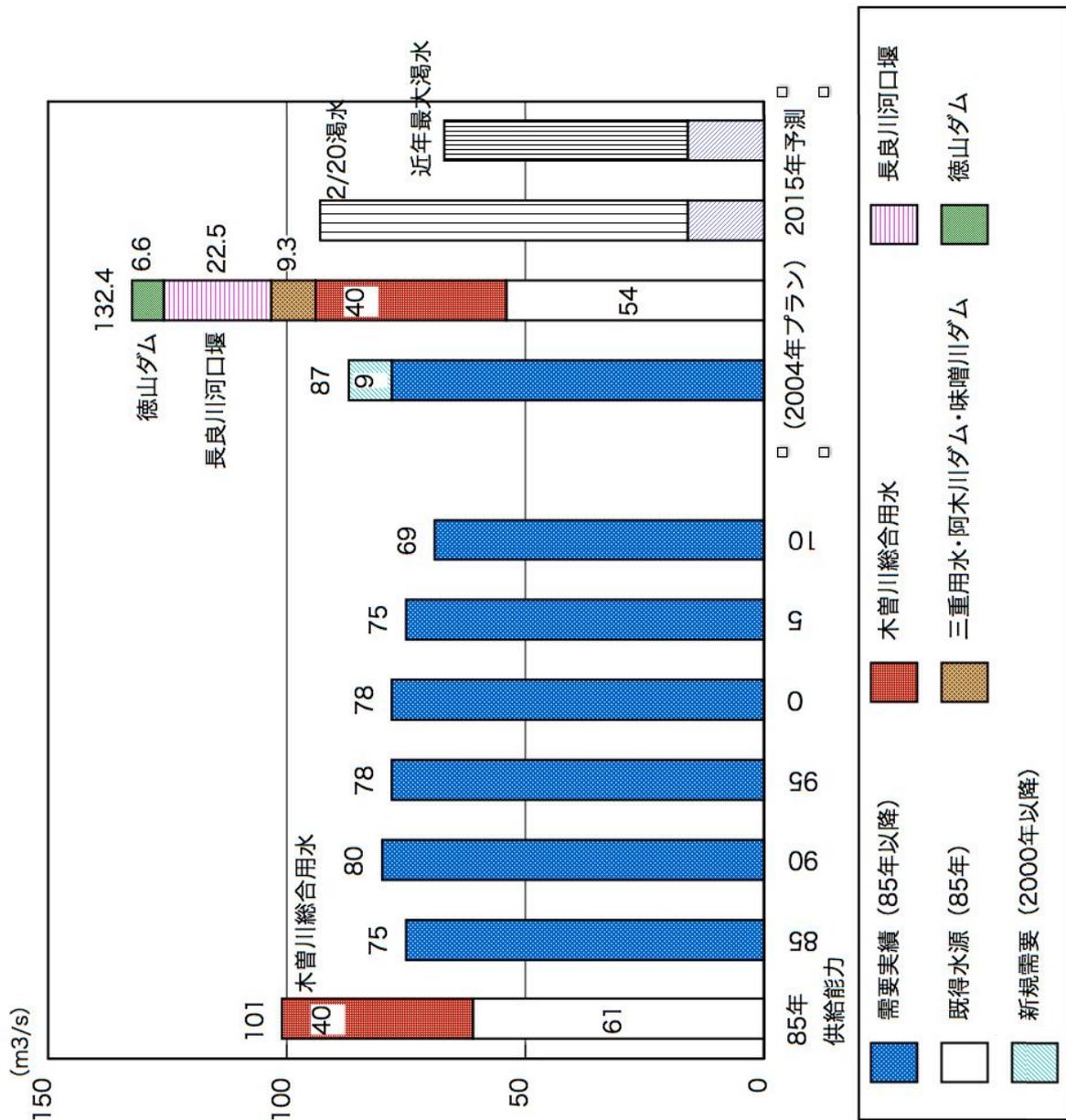
だから渇水といってもですね、ダムの貯水量が50%を切ったところで節水を10%、20%始めるぐらいなんで、実際の給水には全く影響してないんですよ。はい、じゃあ次の次に行ってください。

だから東濃の場合はですね、まあ、人口もちょっと減り気味なんですけども、東濃と言えば中濃を合わせた岐阜県の東部の用水供給事業を実施していますが、これも岐阜県の水道事業化が経営が厳しいので、規模を給水能力ダウンサイジングを進めています。つまり、こういう対策を取れば導水路の事業は全く不要だと考えます。ちょっと最後だけ尻切れトンボとなりごめんなさい。

# 破綻, 改訂されていない木曽川水系フルプラン→柔軟で可能な流域管理へ



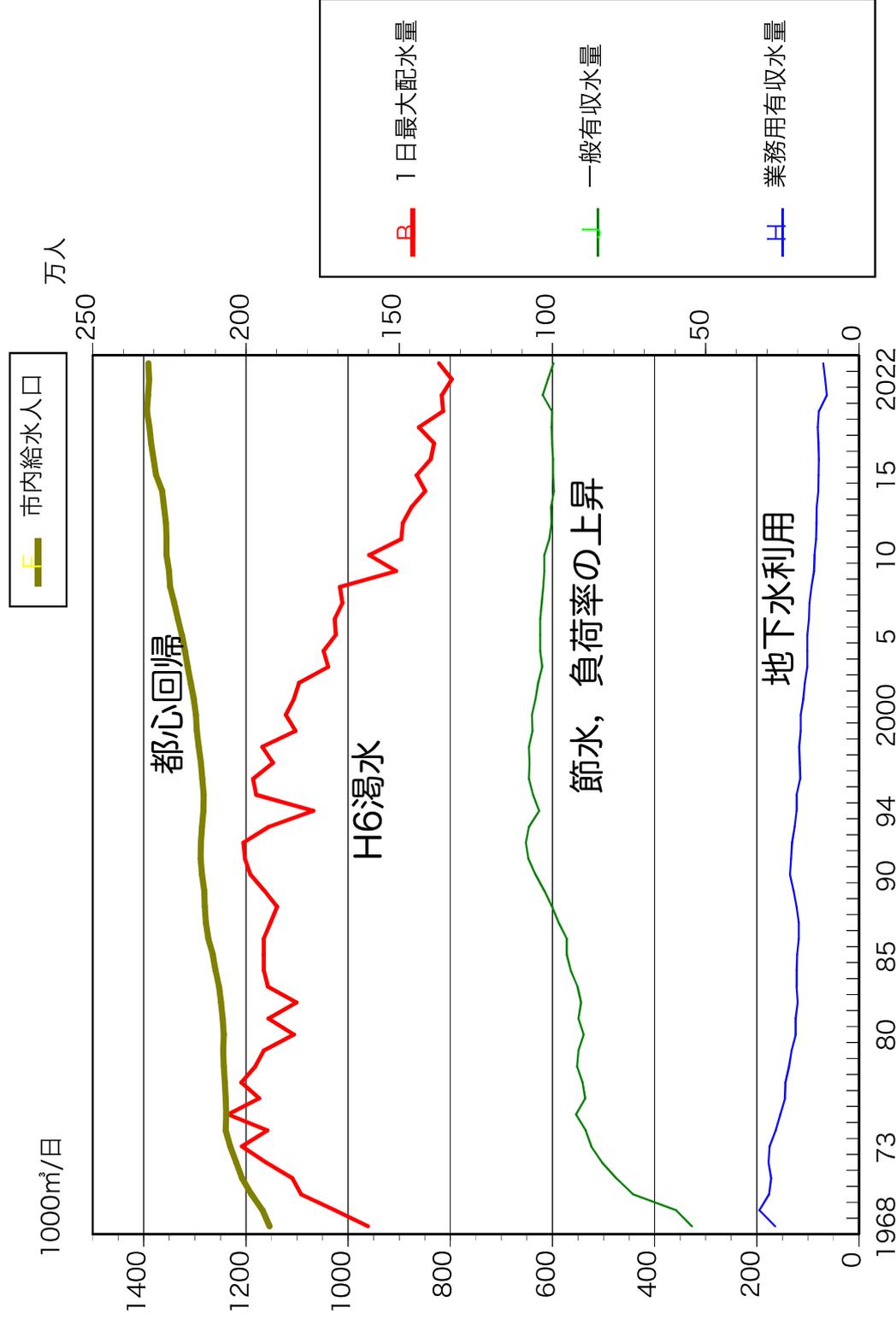
1973年プラン→85年目標, 木曽川総合用水の完成で完全な水余りに  
 河口堰本体着工, 88年→閣議見直し, 93年プラン→2000年目標  
 徳山ダムの事業費見直し→2004年プラン, 2015年目標, 以降, 改訂されていない



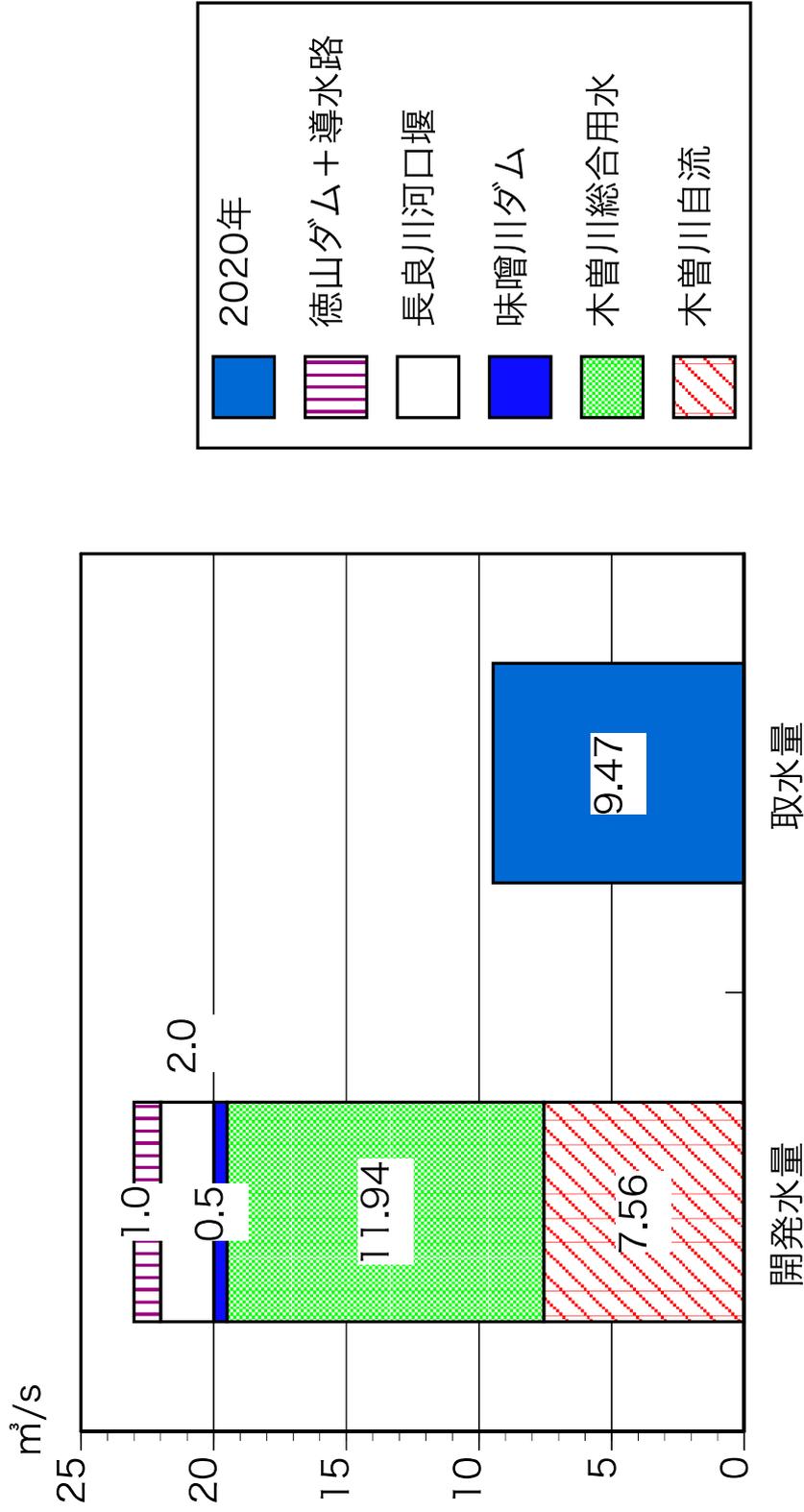
# 名古屋市の水道需要：徳山ダム～導水路から新規に1m<sup>3</sup>/s

給水能力、142.5万m<sup>3</sup>/日、ピークは1975年の123万m<sup>3</sup>/日、拡張事業を中止、水源は水余りに

2000年以降、人口の都心回帰で給水人口は増加傾向したが  
一般用（家庭）の節水、業務用（ビル）では地下水利用の増加



名古屋市統計書より



名古屋市の水道の水源は、木曽川自流 (7.56m³/s) では高度成長期には不足していたが、

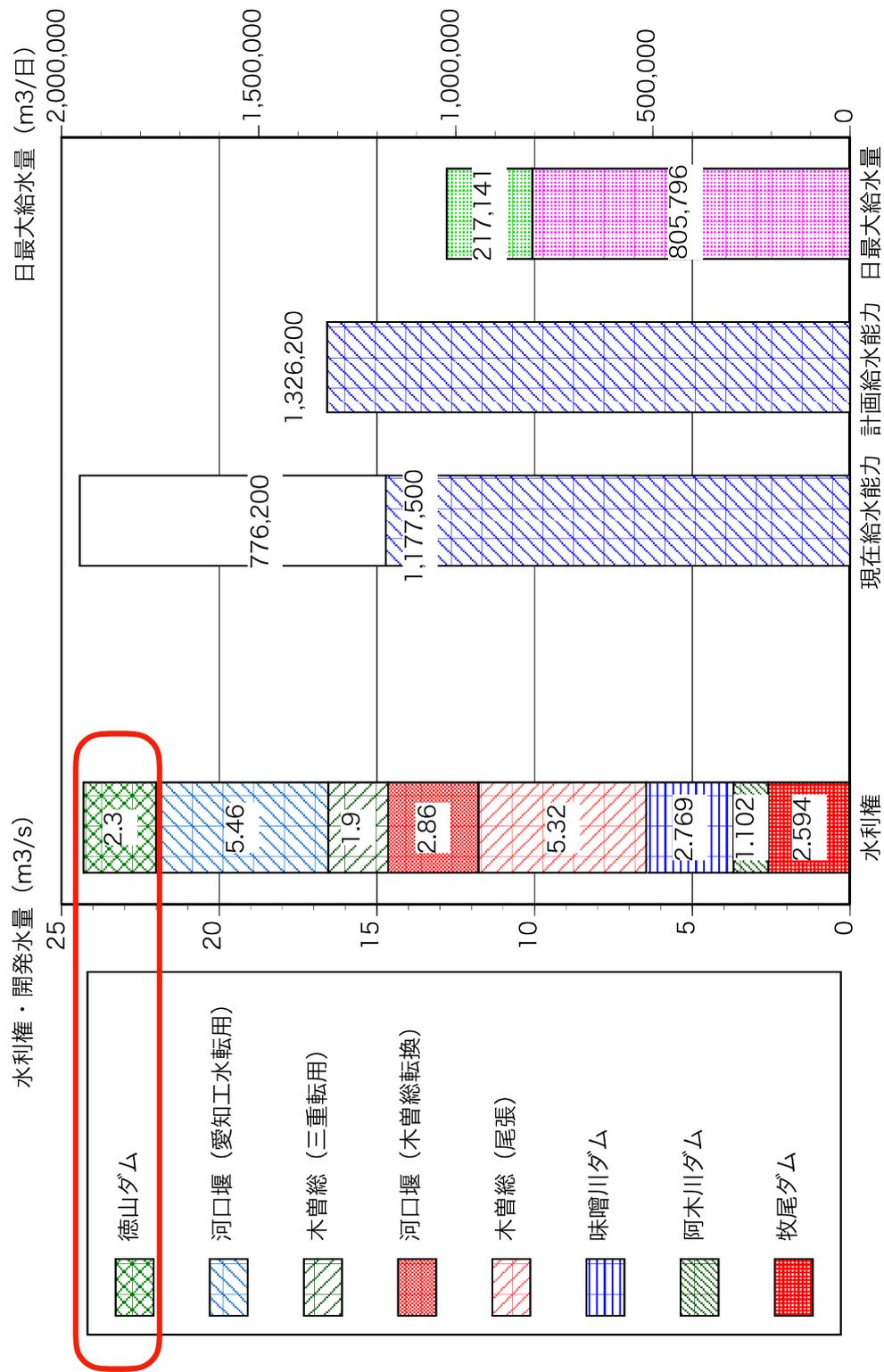
木曽川総合用水 (岩屋ダム, 木曽川大堰, 11.84m³/s) の完成 (1983年) により十分な状態になった。河口堰の着工時に三重県より転用 (0.1m³/s, 計11.94m³/s) .

河口堰からは全く使っておらず、徳山ダム+導水路はまったく不要

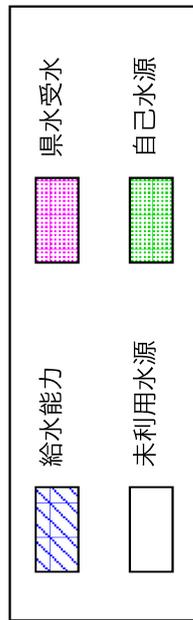
**自流と木曽川総合 (ほぼ木曽川下流の農業用水の転用) の一部で現在の取水量は賄える**

**渇水時も問題がない**

# 尾張地域（名古屋市を除く）の過大な開発水量と日最大給水量（2021年）



## 愛知県の水道



# 尾張地域の2015年予測は、なぜ間違っていたのか？

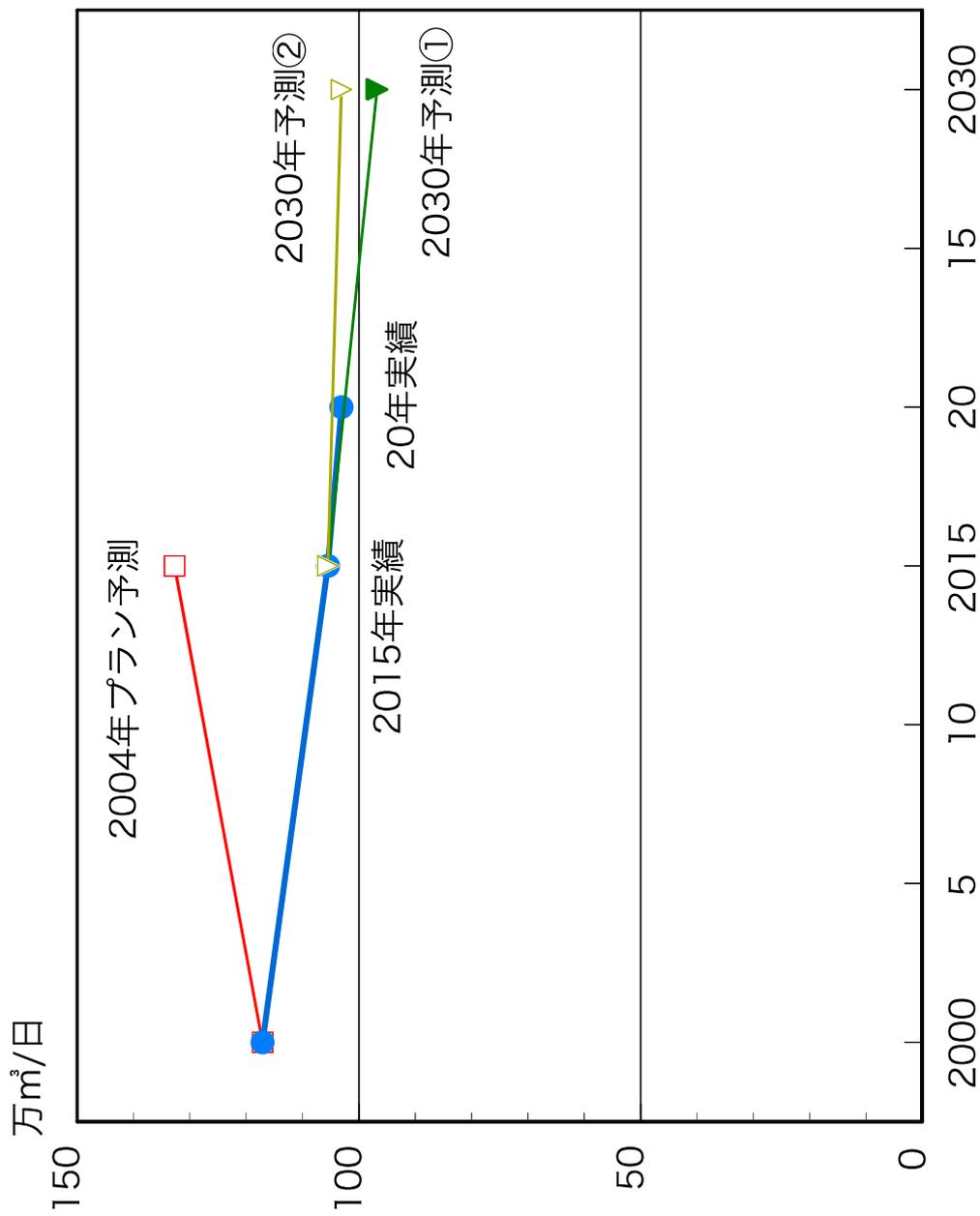
家庭用の原単位の増加，負荷率・利用率の設定の誤り

表2 尾張地域の需給想定調査の諸元と実績の乖離

		2000年	2015年予測	2015年実績	(実績 - 予測)	
1	行政区域内人口	千人	2,799	2,951	2,963	12
2	水道普及率	%	99.8	100.0	99.7	
3=1*2	水道給水人口	千人	2,794	2,951	2,935	(16)
4	家庭用有収水量原単位	l/人・日	254	260	235	(25)
5=4*3	家庭用有収水量	千m <sup>3</sup> /日	709.8	767.2	689.9	-77.3
6	都市活動用水有収水量	千m <sup>3</sup> /日	150.8	175.4	139.2	-36.2
7	工場用水有収水量	千m <sup>3</sup> /日	45.3	50.5	40.3	-10.2
8=5+6+7	1日平均有収水量	千m <sup>3</sup> /日	905.9	993.1	869.4	-123.7
9	有収率	%	91.8	93.5	92.6	-0.9
10=8/9	1日平均給水量	千m <sup>3</sup> /日	986.6	1,062.2	936.3	(126)
11=10/3	1人1日平均給水量	l/人・日	353	360	319	(41)
12	負荷率	%	84.3	80.1	88.8	8.7
13=10/12	1日最大給水量	千m <sup>3</sup> /日	1,170.9	1,326.5	1,054.7	(272)
14	利用率	%	99.2	91.6	99.6	
15=10/14/86.4	1日平均取水量	m <sup>3</sup> /s	11.51	13.42	10.88	-2.54
16	1日最大取水量	m <sup>3</sup> /s	14.85	16.76	12.25	-4.51
	指定水系分	m <sup>3</sup> /s	14.53	16.57		
	その他水系分	m <sup>3</sup> /s	0.32	0.19		

資料：愛知県需給想定調査，愛知県の水道

# 尾張地域の2004年プラン、2015年の予測と実績、2030年の予測



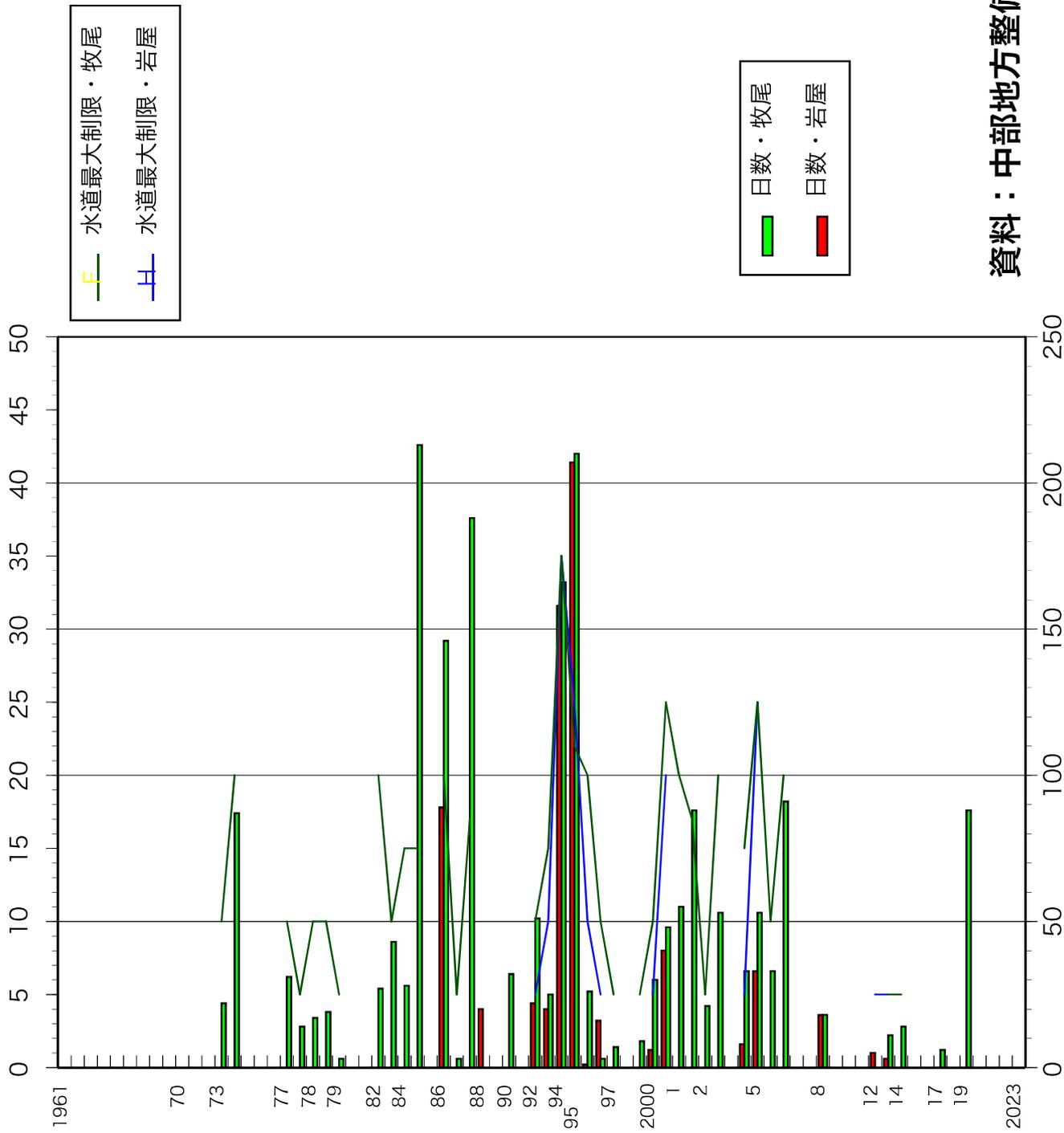
予測①：節水に努めた場合 ②：傾向を延長した場合  
愛知県長良川河口堰最適運用検討委員会，富樫作製

## 異常渇水対策としての導水路案の検討 排除されている選択肢，過去に既成事実としてあった手段

- ① 1994年夏渇水：木曾川用水の農業用水の節水・転用で切り抜けた  
濃尾平野の農地面積は半減している  
(矢作川・明治用水では，農業用水の節水を強化して，水道の節水率を抑制)
- ② 木曾川成戸地点の基準点流量（取水・貯留制限流量）の引き下げ：50→40m<sup>3</sup>/s  
正常流量（木曾川水系河川整備計画）の40m<sup>3</sup>/sと整合していない  
木曾三川協議会（1963年）では40，50，60m<sup>3</sup>/sでシミュレーション  
1986-87年の冬期渇水では40m<sup>3</sup>/sに切り下げた既成事実がある  
対案：岩屋ダムの利水貯留が減れば，40m<sup>3</sup>/sに引き下げて補給日数を延ばす  
50，20m<sup>3</sup>/sも実は確保できず→徳山ダム・導水路の12m<sup>3</sup>/sの補給は不必要  
利水の減少→正常流量の維持（治水予算）にしたため，利水の渇水対策は筋違い
- ③ 愛知用水・東濃用水の渇水対策  
牧尾・阿木川・味噌川の統合運用で，すでに渇水対策は充分  
牧尾ダムの問題：集水域が御岳発電所にバイパスする逕流取水で制約されている  
兼山地点（愛知用水取水）夏期200m<sup>3</sup>/sの豊水水利権が過大  
実績は150m<sup>3</sup>/s程度，70年代前半は150m<sup>3</sup>/sに暫定で切り下げた

# 愛知用水・東濃用水と木曽川用水の取水制限日数と水道の制限率

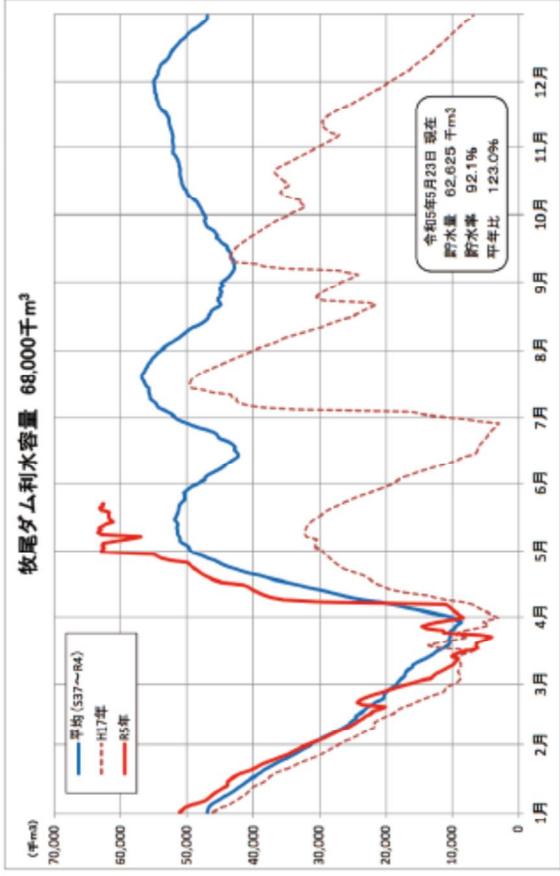
「取水制限」は貯留量が50%を切ると予備的に行なう，給水には影響しない



資料：中部地方整備局

牧尾ダムの貯水量（平均・令和5年）

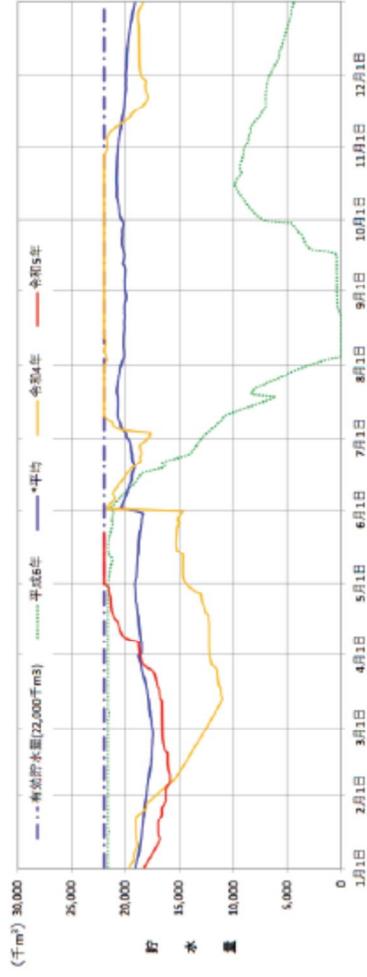
令和5年5月23日 現在



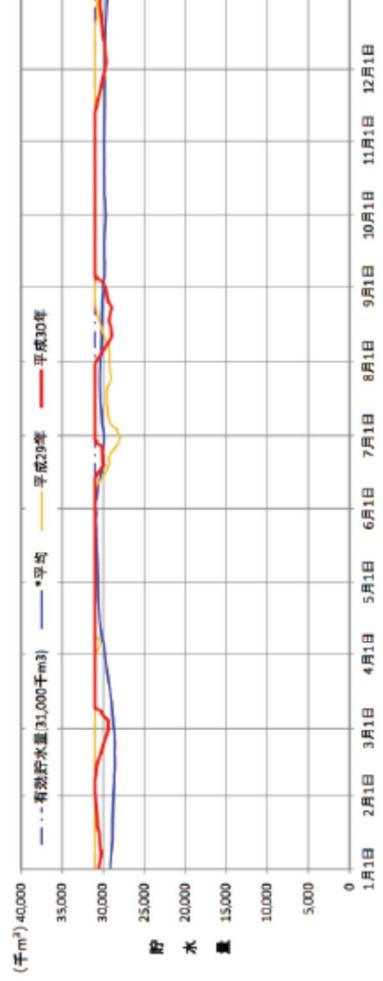
近年発生した渇水の中で歴史的なH17年を基準。

# 牧尾・阿木川・味噌川ダムの 統合運用

## 阿木川ダム



## 味噌川ダム



# 導水路が「東濃の渇水」に役立つわけではない

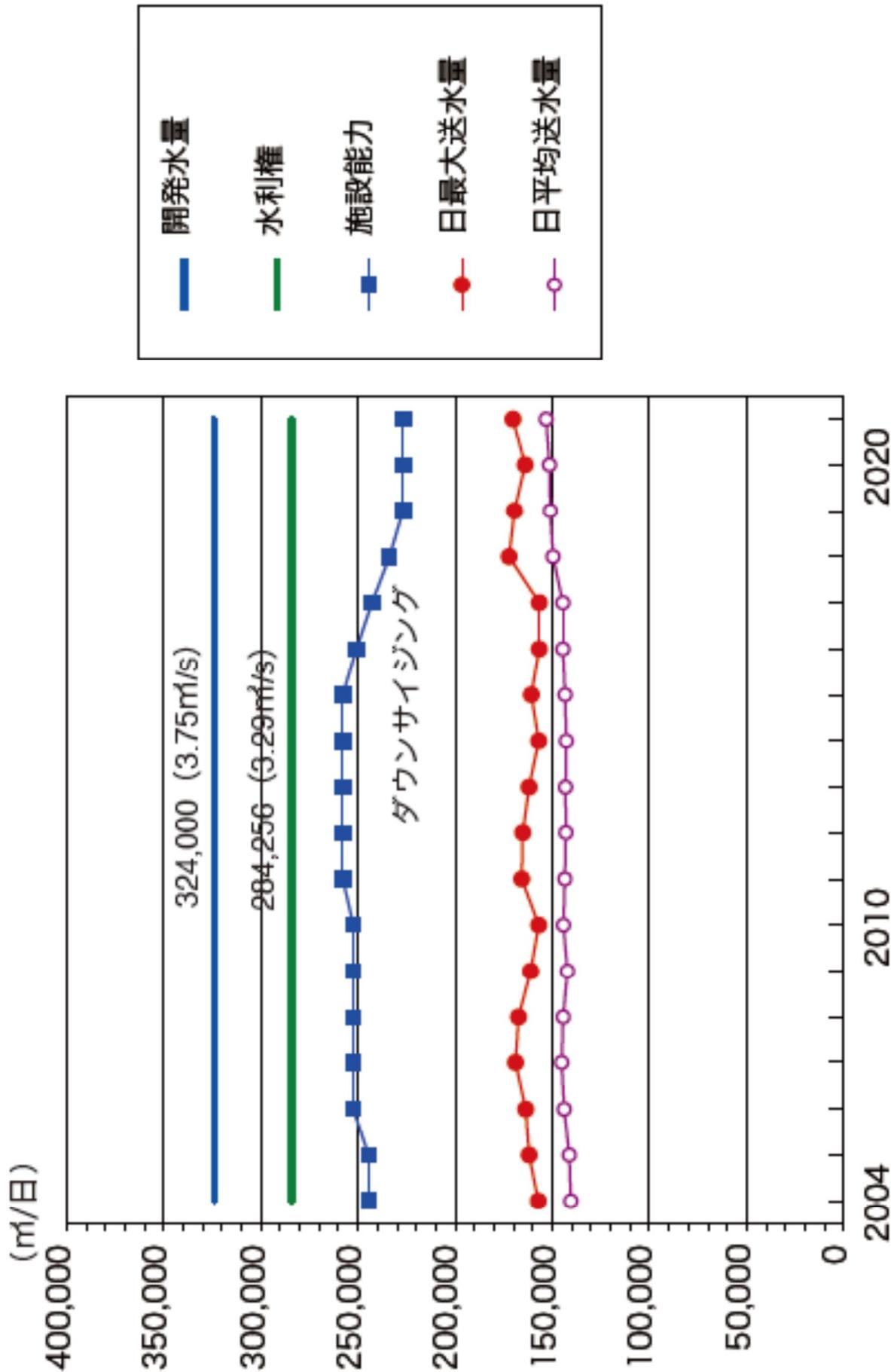
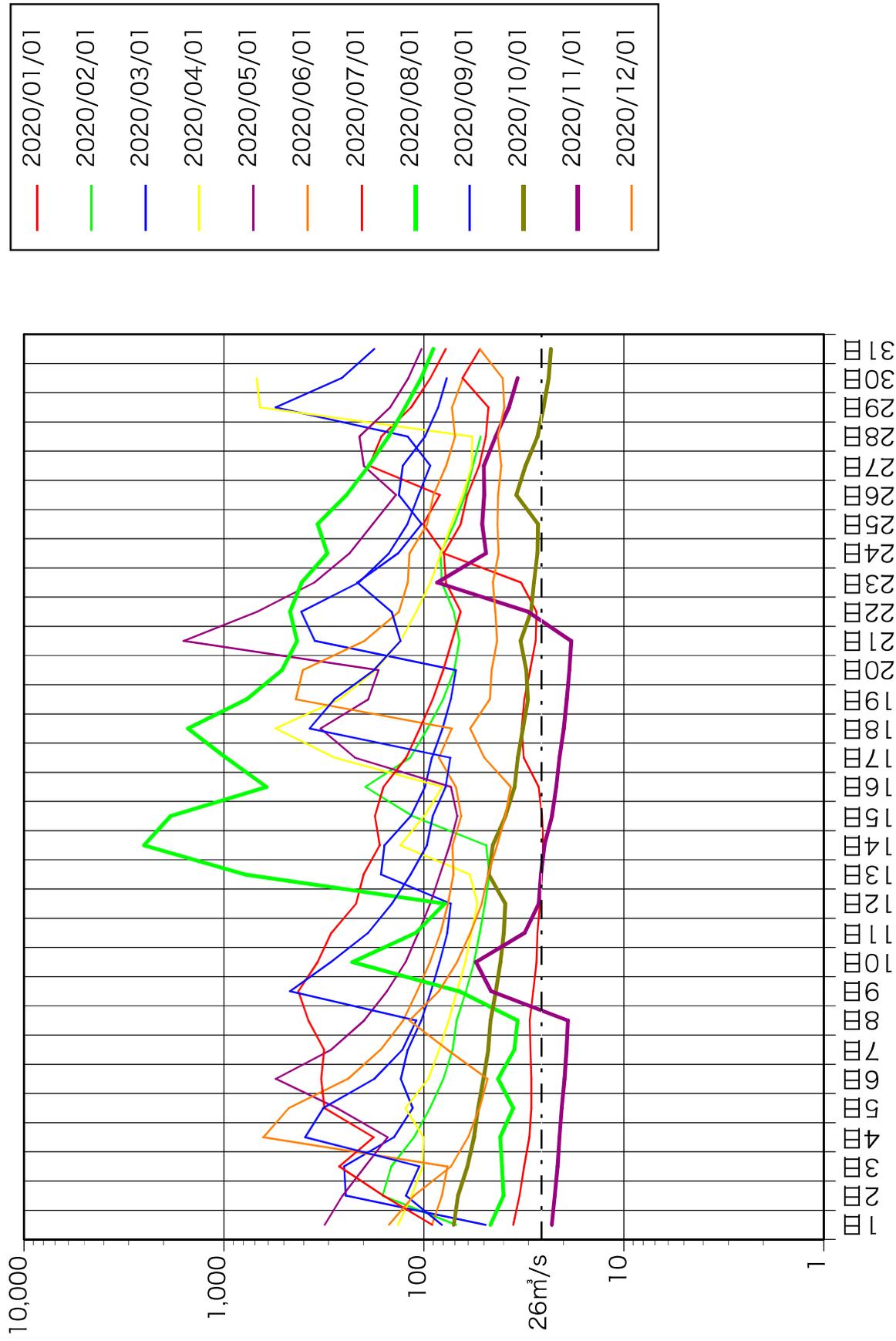


図 10 東部上水道用水供給事業の開発水量、水利権、ダウンサイジング

資料：岐阜県水道企業課，岐阜県の水道

# 長良川の導水路経由の維持流量の補給 (4m³/s) は全く不要

忠節地点の正常流量26m³/s (11m³/s?) : 濁水・最小流量は20m³/s弱 (2020年)



## 既得権や硬直的なやり方を止めて、柔軟で持続できる流域管理へ

① 人口減少，給水量の減少＝収入減・料金値上げ，老朽化・耐震化，人手不足  
→ まったくムダで，事業費が2倍以上になっている導水路事業は不要

## ② 総合的，柔軟な流域管理へ

既得水利権の見直し：農業用水（農地は半減），発電（出力調整）を無視

- ・ 台風・豪雨時の予備放流：利水容量を空けた場合の「空振り」  
不特定容量を無視（新丸山ダム），最上流のダムでは洪水調節の効果が小さい

富樫（2024）「東濃渇水」と愛知用水，導水路：流域管理の柔軟化にむけて，自治研ぎふ，139号

木曽川水系連絡導水路事業の検証に係る検討報告書（素案）に対する  
関係住民の皆様からのご意見をお聴きする場

日時：令和6年6月5日（水）18時

場所：ハートフルスクエアG

【発表者（岐阜3）】

岐阜市在住の■■■■■というものです。長良川のほとりでずっと住んできました。今は少し離れてますが、ずっと長良川を見ながら、この導水路についても、一番早く、この導水路は問題あるということで、声を上げさせていただきました。まず第一にこの導水路事業というのは、もともと住民は知らなかったし、望んでいません。そして徳山ダム導水路は、異常渇水時の河川維持のためとしていますけれども、平成6年の渇水時、長良川の魚も、そして、釣り人も全く困りませんでした。鵜飼いは困ったと言っていますけれども、鵜飼いは実際調べてみるとやめたことはありませんでした、渇水によって。鵜飼いがやめたことあるのは洪水の時であり、コロナの時でした。渇水で鵜飼いが中止になったということはありません。それから、岐阜市水道の水源は枯れたことはありません。はじめはこの渇水の導水路の問題の時に岐阜市は、この検討の場の幹事会において、このような理由をはじめて賛同するようなことを言ってました。渇水時に、環境維持のために欲しい、それから鵜飼いが中止となったら困る、そして我が水道水源は危ない、というふうに言っておりました。しかし、途中からまったくこの三つを言わなくなりました。それはなぜか、これは導水路は岐阜市にとって必要ない。環境の心配はある。環境の心配、導水路の水が流れることによって環境の心配があるんだ、というふうに、発言は完全に変わりました。はい、次お願いします。

では、このような必要ない水がどうして4m<sup>3</sup>/s流されるのか、全く数値のない根拠で、この導水路計画を樹立するためにいっとるわけです。次お願いします。

これちょっと見にくいので申し訳ありませんが、木曽川基本方針の基礎となる資料、要するに、この川にどれだけの水を流すと環境にいいのかっていうような感じのものがあるんですけど、それが下の図にあるように鮎は深さ30センチ、ウグイは何センチ、その

ような数字的なものが述べられています。流速についても述べられています。そしてそれを、あのような表のような形で決定して、というか勝手に決めて、それを河川断面で割って。そうすると、高さ、そして流速をはっきりさせれば流量も出ます。それによって、この長良川に濁水時4m<sup>3</sup>/sを出さなければ、補充しなければならないという結論が出たわけです。じゃあ、どこら辺でその算定をしたのか、それが、右下にあります。結局、忠節橋のちょっと下流、51.3キロのところはその地点を設けてあるような計算をしました。しかし、皆さん、この間の国土強靱化によって、長良川は全く変わりました。用水のようになってます。全くこんな計算をしても意味ないし、その魚に流速何メートル、深さ何センチっていうこと自体が、問題として崩れています。この数字をもとにしてB/C効用が、便益がどんだけあるのかというようなことをやっていますから、それは基本的にこの数字、この水量がいるんだ。そのためには代替えとしてこれくらいのダムが必要なんだという計算をするわけです。これくらいのダムをもういかに高くなればなるほどご利益が大きい。こういうおかしな検証をずっとやってます。はい、次お願いします。事業費が2.55倍というふうに3月28日に発表されました。第8回幹事会です。多分自治体関係には知られていたのかもわかりませんが、公にはここではっきりさせました。そしてこの2.55倍、資料にも皆さん、手元の資料にもありますけれど、働き方改革だの、物価の値上がりだということでやってますけれど、実際にはそうではありません。工事内容が大きく変更しているんです。はい、次。

出された内容はこのようなものでした。右下の図がわかるように、揖斐川から、根尾川から木曾川まで一気にトンネルでこれを持っていく、圧力トンネルで持っていこうというふうな工事に変わるので、私はびっくりしました。従来は上のように川を越える毎に、例えば鳥羽川を越えるときには、鳥羽川を越えるための圧力管で、そしてまた上へ上がって、長良川を越えるときには長良川の下を潜ってというような図になっているところが、一気に根尾川から木曾川に変えると大幅な工事変更がある。従来、住民説明会やられた時も山岳工法NATM工法だから安いからこれで取り上げてやりましたというようなことを、当初の導水路計画に出されてました。しかし、ほとんど全てを、もうこの今になってシールド型のTBM工法にしてしまったわけ、だから、これほど大きい変化あるのにも、これは住民にも何も知らさずに、具体的なことは何も知らされていませんでした。そして、この幹事会の中で、これについて質問する自治体もありませんでした。これが不思議

議なんです。自分のマンション買うのに2.55倍になりますよと、柱は今まで鉄筋でこう  
いうふうにするものが、もっとこの太さがここに変わりました。これで黙ってますか。こ  
れはこの検証の経過です。それから次をお願いします。

だったら、なんでこのシールド工法に全て変えたんだ。これは工事事務所の方に何度聞  
いても、らちがあきませんでした。はっきりした答えが返ってきませんでした。私は実  
際、国会議員を通して質問書を本省の方に問い合わせました。結局ですね。今までの山岳  
工法をたくさんスパンでやると、結局、地下水問題が起こる。要するに工事が終わっても  
地下水が低いまま低下したままの部分がかかなり出てくる。それが心配だということ、で  
すから、TBMシールド工法に変えたというのがある。これも一切この検証騒ぎの中では  
具体的に説明されたこともありません。これが一番問題だと思います。実は、この変わっ  
たというのは地下水対策、本当はあったんです。この例えば、設楽ダムの際にも左岸の方  
の、こちらの山は崩れやすい。だから、このような説明なんかをきちんとしているんで  
す。だけど、なぜかこの導水路では一切、沈黙のまま進められている。次をお願いします。

もう一つ、岐阜市の一番心配なのは、この導水路の水がどっから落とされるか、流され  
るかです。はじめは、この古津谷川から流すということで書かれてあります。ところが、  
新しい図面では岩舟川、要するに志段見のところですね、松尾池のある、この谷のとこか  
ら流そうというそういうことになっています。なんでこんなふうにしたのか、これも説明  
は受けています。もともと考えてきたけど、それは別に今、決定したことじゃない、いう  
ような言い方して、なかなか説明してくれていません。先日、岐阜市とも懇談をもったん  
ですけれど、岐阜市にもきちんとそのことは説明されていません。この岩舟川、岩舟川っ  
ているのは、もともと明治時代、デ・レーケが長良川を見た時に危ない谷だ。山が緩いと  
いうことでえん堤を造って、今のような松尾池のようなえん堤ができたわけです。

はい、次最後。4m<sup>3</sup>/sの環境のための次に0.7m<sup>3</sup>/sの名古屋市工業用水に流される水  
があります。要するに、岐阜市の中を通過して、下から羽島市からやるということですか  
ら、実際には、名古屋市工業用水では一日、だいたい6万m<sup>3</sup>ぐらい使用しておるよう  
ですけれど、実際には大治浄水場、名古屋市のすぐ左上にありますけれど、この浄水場の中  
には水道と上水道と工業用水の浄水場が一緒にあります。ここはパイプともつながってま  
す。案の定、これはパイプでつなげて工業用水を作業用水という名前で、ちゃっかりずつ  
と使ってきているのです。はっきりいったら盗水なんです。

これは名古屋市工業用水が今の余っている、先ほどから説明あった木曾川について、名古屋市水道がどんだけ使っても大幅に余ってるんです。その余り水を今使ってるんだから、その余り水を水利転用とかすれば簡単にできるわけ。だから名古屋市がきちんとそのこと反省して、水利転用なりすれば、岐阜市に、長良川に0.7m<sup>3</sup>/s 流す必要は全くありません。以上です。

# 長良川に徳山ダムの水を流すことを、 地元住民は望んでいない

参考資料5-27

徳山ダム導水路は異常渇水時の河川環境維持のためとするが

- ・平成6年渇水時、長良川の魚も釣り人も困らなかった
- ・鵜飼も実施が不能になったこともない
- ・岐阜市水道の水源(地下水・伏流水)が涸れた事実もない

長良川に必要とされる導水路からの放流水量  
(毎秒4m<sup>3</sup>)となる数値に全く根拠がない。  
魚類専門家からも疑問が出されているが、答え  
てこなかった。

参考文献5-28

徳山ダム導水路は異常渇水時の河川環境維持のためとするが

- ・平成6年渇水時、長良川の魚も釣り人も困らなかった
- ・鵜飼も実施が不能になったこともない
- ・岐阜市水道の水源(地下水・伏流水)が涸れた事実もない



# 事業費2.55倍はなぜか

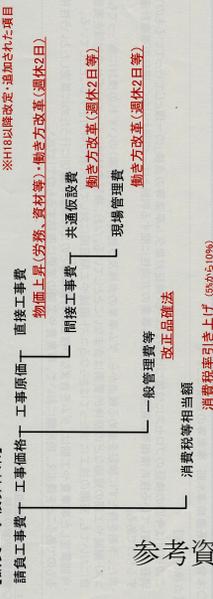
## 建設工事等に関する社会経済情勢の変化

- 労務費の増大については、基本計画案の作成又は変更から長期間が経過しているダム事業については、必要に応じ、総事業費の見直しが行われている。
- 本曾川水系導水路事業費については、基本計画案が平成16年度単年度で平成20年8月に投切されている。
- 建築費に対しては、物価上昇に伴う公共工事調達単価等の変動や働き方改革関連法に基づき労働条件を考慮した適正な工期の確保など、社会経済情勢の変化が生じている。

### （近年の社会経済情勢の変化状況）

- ・平成18年度を基準とした場合、過剰点で労務単価、資材価格（木部材）は約1.7倍に上昇。
- ・働き方改革関連法の導入や改正品確法の施行等による間接費の上昇と選別2日確保による選正工期の適用。
- ・消費税率の5%から10%への段階的引き上げ。

### 【請負工事積算体系】



参考資料5-30

## 点検対象事業費の点検

- 現場条件等、物価の変化、建設業の働き方改革の適用、消費税率の引き上げ等により、総事業費は2,270億円である。
- なお、今回の検証に用いる残事業費（令和6年度以降）は、点検結果であるリスク対策費を除く点検対象事業費の約2,012億円とされた。

項目	工種	積算単価等 (000単位)	積算単価 (000単位)	積算理由 (注)	令和6年度		令和7年度		事業費に伴う事業	
					数量	金額	数量	金額	数量	金額
建設費		807.5	1,870.5	③=②×①	34.9	1,835.5	0.0	0.0	0.0	0.0
工事費		726.5	1,711.5	894.6	0.0	1,711.1	0.0	0.0	0.0	0.0
橋本渡敷 (上流区段)		650.4	1,467.3	699.9	0.0	1,469.3	0.0	0.0	0.0	0.0
橋本渡敷 (下流区段)		8.2	14.8	6.6	0.0	14.8	0.0	0.0	0.0	0.0
取水・放水設備		8.2	14.8	6.6	0.0	14.8	0.0	0.0	0.0	0.0
管理設備		19.8	38.7	19.0	0.0	38.7	0.0	0.0	0.0	0.0
防犯設備		48.1	7.3	△ 40.8	0.0	7.3	0.0	0.0	0.0	0.0
作業ヤード等		48.1	7.3	△ 40.8	0.0	7.3	0.0	0.0	0.0	0.0
測量及び試験費		58.1	102.7	44.6	0.0	70.7	32.0	70.7	0.0	0.0
用地費及び補償費		7.6	29.3	21.7	0.0	29.3	0.0	29.3	0.0	0.0
用地費及び補償費		7.6	29.3	21.7	0.0	29.3	0.0	29.3	0.0	0.0
種別工事費		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
仮設及び補償費		6.3	12.8	6.5	0.0	12.0	0.8	12.0	0.0	0.0
整備・修繕費		9.0	14.6	5.6	0.0	12.5	2.1	12.5	0.0	0.0
工事費		82.5	199.6	117.1	0.0	176.0	23.6	176.0	0.0	0.0
点検対象事業費		890.0	2,070.0	1,180.0	0.0	2,011.5	58.5	2,011.5	0.0	0.0
リスク対策費		-	200.0	200.0	0.0	200.0	-	200.0	0.0	0.0
総事業費		890.0	2,270.0	1,380.0	0.0	2,211.5	58.5	2,211.5	0.0	0.0

注1：この資料は、令和6年度に公表されている「建設工事事業費の点検」の一環として行っているものであり、現時点での点検結果であり、今後の事業費の点検により、今後の事業費の点検結果は異なる可能性があります。また、本報告書はあくまで参考情報であり、実際の事業費の点検結果は異なる場合があります。注2：本報告書はあくまで参考情報であり、実際の事業費の点検結果は異なる場合があります。注3：本報告書はあくまで参考情報であり、実際の事業費の点検結果は異なる場合があります。注4：本報告書はあくまで参考情報であり、実際の事業費の点検結果は異なる場合があります。注5：本報告書はあくまで参考情報であり、実際の事業費の点検結果は異なる場合があります。

令和6年3月28日  
木曾川水系連絡導水路事業の関係地方自治体からなる検討の場(第8回幹事会)資料より



# 地下水対策だった？

②根尾川右岸から木曾川までの区間をすべて圧力管に変更した理由について。

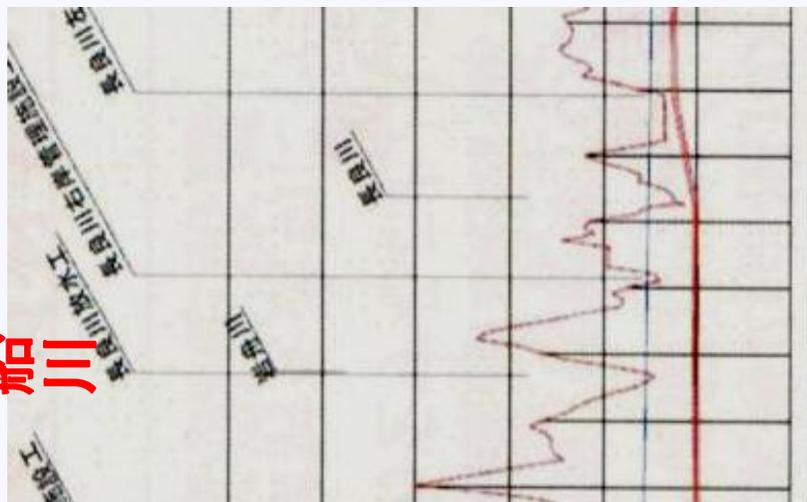
(答)

○ 平成21年7月に公表した環境レポート(案)では、水環境(地下水の水位)について、一般的なトンネル工法(NATM工法)では、覆工後、地下水の水位はある程度回復すると見込まれるが、施工前と比べて水位が低下した状態となる可能性がある旨の予測結果となりました。また、シールド型 TBM 工法では、掘削後の覆工を早期に実施することで、早期の水位回復が見込まれ、地下水の水位への影響は限定的かつ一時的なものになる旨の予測結果となりました。

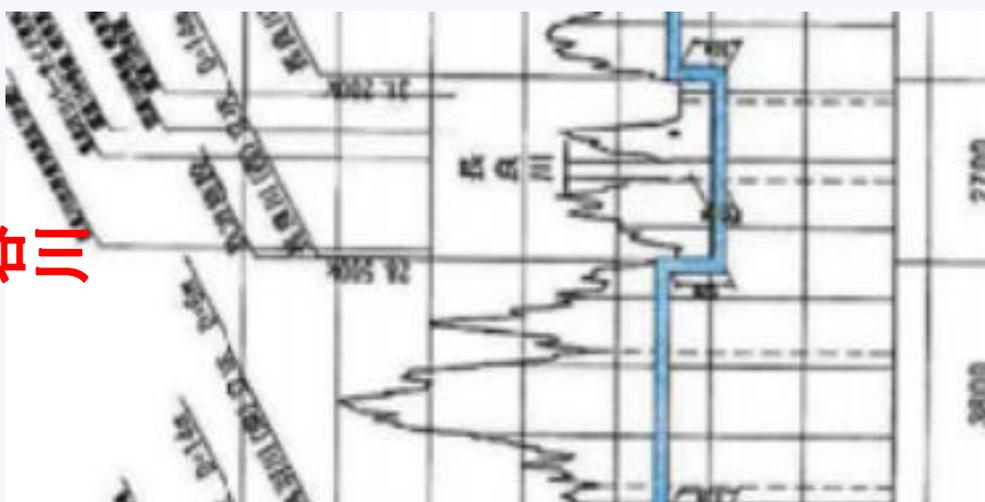
○ これらの予測結果を踏まえ、ダム検証に入る前の平成21年度まで検討を進め、地下水の水位への影響が限定的かつ一時的なシールド型 TBM 工法で施工する圧力管トンネルの検討をしていたものです。

# 長良川への放水箇所

岩船川



古津谷川



# 長良川に流される、名古屋市工業用水の 毎秒0.7m<sup>3</sup>は必要ありません。

現在、名古屋市工業用水の原水は、ほとんど大治浄水場(上水道)の「作業排水」です。

つまり間接的に木曾川の水を使っているのです。ですから上水道の木曾川の未利用水を工業用水に切り替える「水利転用」手続きと大治浄水場内でのバルブ操作をするだけで、徳山ダム導水路は不要となります。



木曽川水系連絡導水路事業の検証に係る検討報告書（素案）に対する  
関係住民の皆様からのご意見をお聴きする場

日時：令和6年6月5日（水）18時

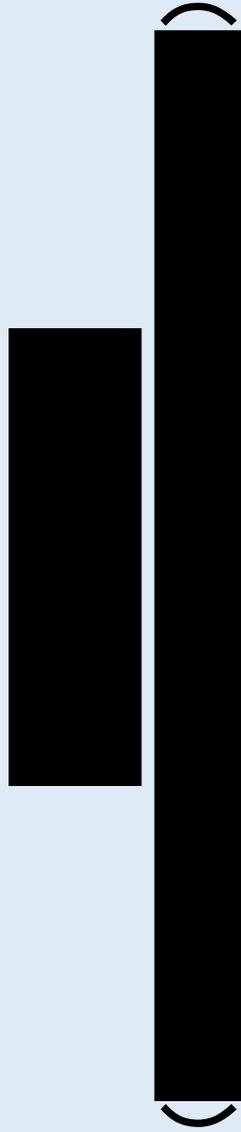
場所：ウィルあいち

【発表者（名古屋1）】

はい。ただいまご紹介いただきました私、名古屋市北区に住む■■■■と申します。このスライドにありますように、私は堀川1000人調査隊という市民活動の事務局長を大凡20年間にわたって務めております。堀川1000人調査隊というのは、2007年から2010年まで実施された堀川の浄化のために木曽川の水を導水する社会実験をたくさんの市民の視線でその効果を検証する活動から始まりまして、現在まで名古屋市と市民が一緒になって堀川の浄化再生を進める活動を続けてきています。そうした立場にありましたので、私はこの木曽川水系連絡導水路の事業については、人一倍の関心を持ってまいりました。しかし、本日はそういう立場をちょっと離れまして、まずは一市民として、この事業についての賛成意見を述べさせていただきます。次のスライドをお願いします。私は大きく三つの理由で、この連絡導水路事業に賛成し、一刻も早い着工、完成を望んでおります。その一つ目の理由です。今年初めの能登半島の地震には大変驚きました。今も水道が復旧せず、大変困っていらっしゃる方がたくさんいらっしゃいます。地震だけでなく火山の噴火も心配です。木曽三川流域には火山もあり、例えば溶岩で川の流れがせき止められないこともないとは言えません。いつ、どんな大災害がどこで起きてもおかしくない、そういう中で先人の皆様がつくってくださった現在のインフラだけに頼ってはいは、とても不安です。現役世代の私たちは、常にリスクに対してはアップデートし、備えを厚くしていく必要があると思います。また、この地域は木曽三川という大変恵まれた大河の恩恵を受けています。この木曽三川を単独に利用するのではなく、うまく結び合って、ネットワークとして相互利用ができる条件に恵まれているのに、これが十分に活用されないのは、あまりにもったいない。そう思うのが一つ目の理由です。次のスライドをお願いします。2つ目の理由です。今回の事業費は、昨今の経済事情により確かに割高になっているかもしれません。これも事業を進める上での大きなネックの一つになっていることと拝察をいたしま

す。しかし、徳山ダム自体はすでに出来上がっております。このダムに投じた建設コスト、すなわち先行投資分は十分に使われないまま放置されているように私たち市民には思われます。しかし、ダム本体に比べれば、あと少しのお金を投じればこれまでの先行投資が死に金でなくすべて生きたお金になります。そして私たち住民は孫、子にわたる将来世代にわたって、長くその恩恵を受け続けることができます。親たちの世代が投資してくれた資産を少しでも生かして使いたい。そのための必要経費であると、私は思います。これがこの事業に賛成する2つ目の理由です。次のスライドをお願いします。3つ目の理由ですが、昨年、名古屋市が国に対して提案した三つの提案、すなわち、連絡導水路をより一層活用し、付加価値、コストパフォーマンスを高めることになり、とても理にかなっていると思いますので、この提案に私は全面的に賛成です。この三つの名古屋市の提案とは、連絡導水路を活用して安全でおいしい水を確保すること、流域治水に活かすこと、そしてこれは私の悲願でもあるのですが、堀川の再生に活用すること、いずれも私は大賛成です。安心安全、そして魅力のある地域づくりを私たちの世代で推進し、そして次の世代に受け継いでいくためにも、ぜひ、この木曾川水系連絡導水路事業を進めていただきたいと思います。以上で私の賛成意見の発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。

# 連絡導水路事業に賛成します



# 大きく3つの理由で、賛成意見を発表し一刻も早い着工・完成を望みます。

理由1 水源を、現在のインフラだけに頼ってでは不安。今後、いつ起きるかわからない大災害に、少しでも厚く備える必要性を痛感する。

この地域は、木曾三川という恵まれた大河の恩恵を受けているが、十分に活用されないのは、あまりにもったいない。

# 大きく3つの理由で、賛成意見を発表し一刻も早い着工・完成を望みます。

理由2 事業費は、昨今の経済事情により、確かに割高になっていくかもしれない。

しかし、すでに投資の済んでいる徳山ダムの新増設コストを含めて考えれば、あと少しお金を使えばこれまでの先行投資がすべて活きたお金になり住民は、その恩恵を将来世代にわたって、永く受け続けることができる。

大きく3つの理由で、賛成意見を発表し一刻も早い着工・完成を望みます。

理由3 昨年、名古屋市が国に提案した3つの提案に、全面的に賛成。

安全でおいしい水を確保すること  
流域治水に活かすこと  
堀川の再生に活用すること

木曽川水系連絡導水路事業の検証に係る検討報告書（素案）に対する  
関係住民の皆様からのご意見をお聴きする場

日時：令和6年6月5日（水）18時

場所：ウィルあいち

【発表者（名古屋2）】

こんばんは、私は名古屋市瑞穂区から来ました[REDACTED]と言います。前の職業は名古屋市の上下水道局の職員です。その経験から今日はみなさんにお話をしたいと思います。さて皆さん13年ぶりに開催されました検討の場では、導水路の建設がもっとも有利な案、先ほどお話しがあったとおり、素案を了承する一方で、その場では事業費が当初の890億円から約2.5倍の2,270億円に増額されることに対して、並みいる方々が、首長の方々が縮減に努めてほしいとの意見が相次ぎました。しかし、ちょっと待ってください。私は税金の無駄遣いをやめるためには導水路建設そのものをやめれば良いのではないかという議論が全くされなかったことが不思議でなりません。私が生活を営む名古屋市水道の需要は70年代は確かに大変でした。ピークでは大変でした。その時に比べて2/3まで、今減っております。1日180万トンの水利権に対して2020年は最大でも1日82万トンでした。都心回帰で給水人口が増えても、水需要は節水器具の復旧や生活習慣の変化などで減り続けています。95年に運用を開始した長良川河口堰の水は一滴も使う予定がありません。不都合な真実は何か、水余りです。それが何より証拠には09年4月行政の無駄遣いを許さないをスローガンに初当選した河村市長はその翌月の5月、水需要が増えていないことを理由に撤退を表明しました。支持率は中日新聞に載りましたが、本当に急上昇しました。輝いて河村市長の顔が写真に載りました。また、昨年5月に開催の導水路を巡る意見交換会では、市民の会場発言は9人中7人が反対でありました。反対もしくは考え直してほしいということでありました。堀川浄化には余っている、現在余っている水を使えばいいのではないか。そして凍結すべきだという意見に対して、市長の手のひら返しにびっくりしましたということの意見も出ました。反対派、皆さんも出席されたかもしれませんが、私も参加しました。反対派の挙手が多くて、司会の方が賛成の人はいませんか？と言ってですね。探し出す始末でした。

検討の場が今なすべきことは、名古屋市民にとっても何のメリットもない、この導水路事業の延命をあれこれ図るのではなく、直ちに税金の無駄遣いの中止を決定することです。今ある資産を有効活用することが大事だと思います。以上、ご清聴ありがとうございました。

木曾川水系連絡導水路事業の検証に係る検討報告書（素案）に対する  
関係住民の皆様からのご意見をお聴きする場

日時：令和6年6月5日（水）18時

場所：ウィルあいち

【発表者（名古屋3）】

はい。名古屋市に住んでいます、■■■■と申します。今は福祉施設の送迎ドライバーの仕事をしております。いわゆるダムマニア・水道下水道マニア・暗渠マニアの一市民です。私は導水路計画に反対の立場で簡単に発言をさせていただきます。こちらに事務局に要旨としてお渡ししたものをそのまま映してもらっておりますので、それを参考に聞いて頂ければと思います。

まず1、2、3ということであげました。マニアなんですけど、ずっと名古屋市に暮らして、名古屋市で仕事をしていましたものですから、名古屋のことしかしゃべれませんのでよろしくをお願いします。

まず、私は自分で町の郷土史家と言ってるんですけど、名古屋市の色々な歴史を紐といてみました。木曾川水系の水資源開発計画は、偉大な杉戸清さんが市長をやってらっしゃった頃に作りだされたと聞いておりますし、歴史に書いてあります。当時は相当の大風呂敷でして、名古屋市の人口が400万人。合併合併合併の時代でしたんで、名古屋市は膨張をするってということで、今の弥富市や飛島村、そして東海町を含む広大な範囲に名古屋市の市域が拡大をすると。当時は開発するってことは名古屋市に編入されないと開発されないという時代でしたんで、とにかく名古屋市がどんどん膨張する。西部臨海工業地帯、南部臨海工業地帯も名古屋市になると。したがって、今東海市にある大製鉄所にも名古屋市が給水をするということを前提に、今の計画に乗ったというふうに聞いています。当時は、200万 $\text{m}^3$ 、一日で200万 $\text{m}^3$ 。今、先ほどの■■■■さんおっしゃいましたけれども、今80万 $\text{m}^3$ が現行の給水量ですんで、400万人を養うってことでしたんでそのぐらい必要だったと思うんですけども、今230万人で80万 $\text{m}^3$ ということがございます。

当時の計画書を見ると、中川区、港区も、もう工場が立地立錐して、東海市も弥富も十四山村もみんな工場マルケになって膨大な量の工業用水を使うということが、まあ構想の

中に書いてありました。今 70 年近く経って、今申し上げた現状でありますんで、ぜひこれからも少子高齢化。名古屋市も人口が減っていくという時代でございますんで、計画そのものがまあ過去の遺物じゃないかなと思ってます。そもそもがそうであるからゆえに、いろんな理由でこの仕事をチャラにせずにやってるとするのがちょっと私にとっては疑問でございます。

2つ目が、堀川浄化についてであります。私も暗渠マニア、水路マニアなものですから。今日、堀川沿いに走ってきたんですけども、堀川の水源は非常に特徴的なんですけども、庄内川から水分橋頭首工で取り入れてる庄内川からの水と、市内で下水道処理された名城処理場や熱田処理場の下水道放流水、そして、名古屋港から遡上してくる海水が主な水源です。特に海水は莫大な量でして、毎日干潮満潮があるんですけども、北区の志賀本通りの駅の近くにある猿投橋っていうところまで名古屋港の水がさかのぼってくるという非常に特殊な構造を持った川が堀川です。従って私は今、生物多様性の時代、SDGs の時代だと言われる中で、いわゆる遠くから水を持ってきて希釈をするというのはいかなものかといつも思っています。やはり莫大な量の名古屋港からの海水と下水処理場からの放流水、そして、庄内川から取り入れてる上流の水、特にあの水分橋頭首工のすぐ上流にある名前を申し上げませんが、巨大工場がありまして、そこから膨大な量の排水が出てきますんで、やっぱりこの三つをしっかりと水源を今ある水源をしっかりと浄化することが大事なことかなと思っています。ただ、十年ほど前に、最初の方がおっしゃいましたけど、社会実験を行いました。鍋屋上野浄水場の水を猿投橋のところに放流してやってみるということでございます。先週の学識経験者の会での先生も一定の効果があったというふうに評価をされていらっしゃいましたけれども、まあよしんば、これで希釈をするにしても、今やれたんじゃないかと私の場合はですね。もしこの水で堀川の水を浄化する手段となるならば、わざわざ揖斐川の水、長良川の水を持ってこなくても、今ある木曾川の水でやれるんじゃないかというふうに単純にこれ一銭もお金はいりませんので、バルブをひねるだけで鍋屋上野浄水場から水が出てきますんで、ぜひこれをもし希釈としてきれいな水を使うっていうなら、社会実験でやったことをまあ本格実施したらどうかと考えています。

3つ目がお金のご話でございます。あの先ほど給水量が伸び悩んでるって話をしましたけども、名古屋市役所のホームページで調べたところ、40 年前は名古屋市の給水道料金収入は 500 億円、年間あったんですけども、今一割減って 450 億円だそうです。まあどんどん水が使われない時代になって、お金も減ってきてるというふうに聞いています。

今月から電気代が上がるってことで、今社会問題になってるんですけども、市役所の人に聞いたら、名古屋市役所で一番電気代使ってるのは、実は交通局ではなくて水道局と下水道局が一番電気を使ってるんだよ。一年365日、24時間ポンプを動かしているの、電気代が馬鹿にならないんだよってことを職員の方がおっしゃっていました。また、この6月からの電気代の値上げで、まあ大変かなというふうに思っています。

まあ、そんなかなで。水道局の経営も厳しいというふうに伺っています。職員さんにお聞きしたところ、40年で、3,000人から2,000人、ええ、1,000人減ってしまったというふうに聞いています。能登半島の地震でも名古屋の水道局、下水道局の仲間のまあ、支援が非常に高く評価されて全国的にも注目されたんですけども、いざという時にはやっぱりマンパワーじゃないかなというふうに思ってます。

今ある名古屋の水道、そして名古屋市役所の色々な水利権や水資源、そして職員さんのご奮闘含めて、市民負担を避けて、市民のためにいい仕事がやれるような環境ができればというふうに思います。もうその中で、今回の木曾川水系の連絡導水路はいかがなものかと思っております。はい、以上で発表終わります。

属性情報（統計処理をしたものを公表します。）

住所

年代（○で囲んで下さい）

意見の要旨（当日、発表された内容を議事録として公表します。）

- ① 木曾川水系の水資源開発計画は、名古屋市にとっては杉戸清市長の頃の構想が基礎となっています。人口が400万人、市域が弥富市と飛島村そして東海市を含む広大な範囲に拡大し、一日あたり給水量が200万 $\text{m}^3$ 超と、それこそ「大名古屋市」となることを前提としていました。70年近く経過し、「少子高齢化」「SDGS」の時代で、計画そのものが過去の遺物です。
- ② 導水路事業の目的とされている「堀川浄化」に必要なのは、水源の改善（庄内川の工場排水、市内の下水道放流水など）です。木曾川から導水し希釈するのは、「生物多様性」の時代に逆行します。15年ほど前に実施した社会実験（上水道導水路を活用して木曾川から堀川に導水した事業）の結果はどうなったのでしょうか。
- ③ 給水量が50年近く停滞、料金収入も減少して、逆に電気代など費用がかさみ名古屋の水道局も経営が厳しいと聞いています。先人たちの努力の結晶である木曾川の恵みを有効に使い、市民負担の増加を避けることが、物価高騰で市民が苦しんでいる今、私たちの為すべきことではないでしょうか。

&lt;当日の発表予定の時間を下記に記入してください&gt;

発表予定時間：10分

※意見の要旨の記載にあたっては、予め発表時間を10分以内と想定した上で記載してください。

※楷書横書きで、できるだけ400文字以内で記載してください。